

文化薫道

ぶんか
くんどう

◆其の百二十五

古墳の大きさは、
ちから
力の大きさ

原田駅にほど近い丘の上にそびえる
国史跡五郎山古墳は、内部の石組みの
部屋(石室)に壁画が描かれた装飾古墳



▲五郎山古墳(中央)と一般的な円墳(右下)

として知られていますが、古墳のサイズも大きな特徴の一つです。直径約32m、6世紀後半ごろの円墳ですが、この時代は古墳時代の象徴である前方後円墳が造られなくなっており、当時のちくしの周辺では、最大級の大きさを誇ります。同時代の一般的な円墳(写真右下)の大きさと比べると、その巨大さがよく分かります。

古墳の大きさは、埋葬された人物の権力の大きさを表していると考えられています。技術者、工人とともに、多くの労働者や資材を調達する力が無ければ、これほど大きな古墳は築けないからです。五郎山古墳にだれが埋葬されていたのかは分かりませんが、ちくしの一帯を治めていた有力な豪族であったことは間違いないでしょう。

五郎山古墳の大きさを現地で体感すると、当時の人たちを動かした力を感じられるかもしれません。今年で開館25周年を迎える五郎山古墳館には、ここにしかない原寸大可動式の石室模型がありますので、ぜひご覧ください。

文化財課

